

もの言う牧師のエッセー 第107話

「JFK」

JFK（故ケネディ大統領）の暗殺50周年を迎える今月、彼の愛娘キャロライン・ケネディ氏が駐日米国大使として着任した。実はJFKが暗殺された日は、日米間初のTV中継衛星通信実験が行われ、奇しくもこの暗殺事件が海外からの“生中継第一報”となった経緯があり、改めてケネディ家と日本の不思議なつながりに驚いた。はっきり言ってJFK暗殺はアメリカ現代史最大の謎、いや汚点であり、諸説紛糾したまま、全くもって茶番としか言いようのない結果をたどって今日に至り、それを裏付けるかのごとく最近の調査でも7割の米国人が“複数犯行説”を支持している。

理由は簡単だ。まずもってこの事案の証拠物件の公開が2039年！まで凍結されていること。また大規模な証拠隠滅が行われたと推測できる事象が多くあるためである。ポイントは「誰が彼を殺したか？」であるが、今に至るも米政府は「全てL・オズワルドが後方から撃ったから」と言う。しかしビデオを見ての通り、JFKの致命傷となった3発目(とされる)が頭部に命中した際、彼は“後方”にのけぞっており、つまり「彼は前方から撃たれた」はずだ。が、すでにオズワルドが狙撃をしたテキサス教科書図書ビルはJFKの乗る“車の後方”にあり、彼が「後方から撃った」と言うには無理がありすぎる。私もダラスに在住したことがあり現場には良く通ったが、実は現場のエルム通りは下り坂になっており、しかも犯人が周知の通り同ビル5階からJFKの後ろから撃ったとすれば、彼は前方に屈するのは明白だ。聖書は言う。

「知らぬ存ぜぬで押し通せば、どんな不正行為も隠しおおせ、逮捕にまでは至らないと、自分に言い聞かせています。彼らの言葉にはみな裏があり、一かけらの真実もありません。知恵や善行とは無縁の連中です。夜通し悪事をたくらむ彼らには、悪事から足を洗おうという気持など、みじんもないのです。」 詩篇 36章2-4節：LB。

そういえば日本でも現在、JR北海道の不祥事や食品業界の偽装など情報隠蔽だらけである。おまけに安部政権は特定秘密保護法などと言い出した。都合の悪いことは何でもかんでも隠せば良いのか。しかしごまかせるのは人間だけである。神であるキリストは全てをご存知であり、そう遠からぬうちに全てが公開されることをお忘れなきように。 2013-11-15

